

(8) 中国



中国地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、_は下方に変更)

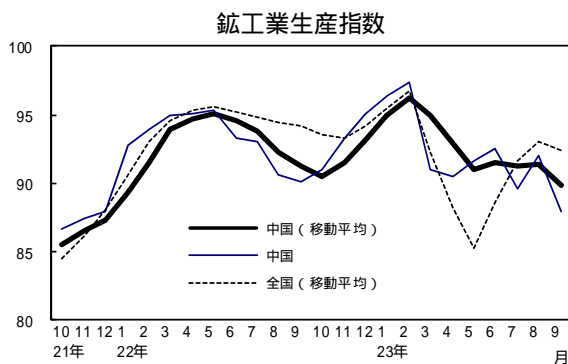
前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年8月)	今回(平成23年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	おおむね横ばい	
個人消費	持ち直しの動き	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

鉄鋼は、輸出向けが不調で、台風による浸水や高炉メンテナンスの影響もあり減少している。化学は、円高等の要因で輸出が低レベルで推移し、需要見合いの生産により減少している。輸送機械は、サプライチェーンの回復により増加している。一般機械は、印刷機械やプレス用金型が好調で増加している。電子部品・デバイスは、海外・国内向けデジタル家電、携帯電話等の生産が落ち込み、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。

2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
鉄鋼	16.5	5.2	6.1	7.0	10.8
化学	16.1	6.1	3.9	4.4	1.0
輸送機械	14.8	7.1	6.5	14.0	11.7
一般機械	10.7	3.0	0.1	1.9	10.6
電子部品・デバイス	7.3	9.9	2.2	3.2	-
鉱工業	100.0	3.6	1.7	1.0	1.4

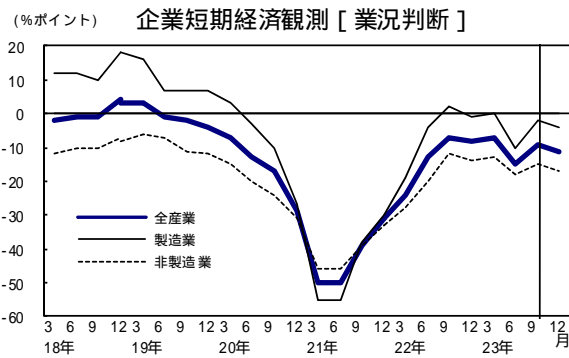
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

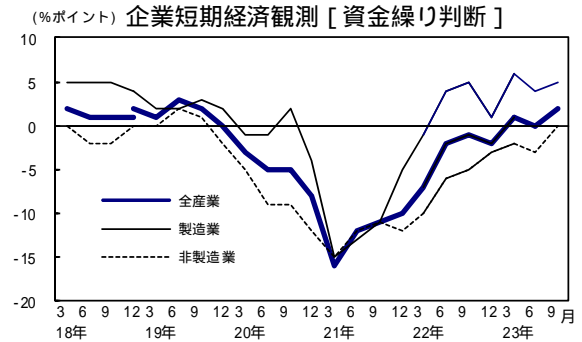
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

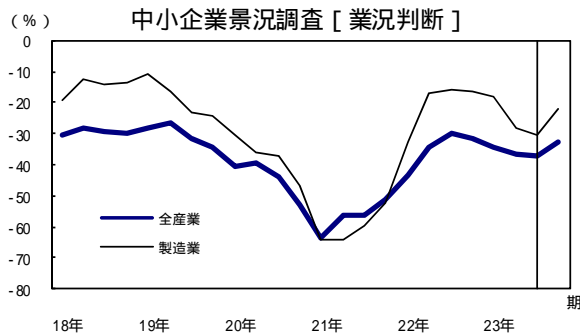
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

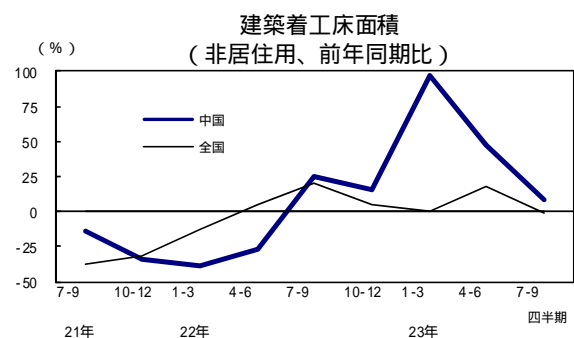
「売上は、国内向けでは市場の冷え込みが続き厳しい状況であり、海外向けは順調に注文が入るが、円高の影響で採算が取れない状況である(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	0.0	13.1 (1.5)
製造業	8.2	10.8 (1.4)
非製造業	10.6	17.3 (1.5)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

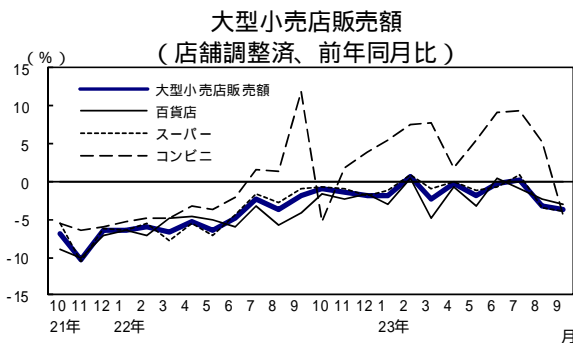
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で2.1%減、前期比で1.3%減となった。

百貨店は、7月は、化粧品やインポートブランド品などが好調も、飲食料品が低調だったことから前年を下回った。8月は、中元の処分セールが好調も、クールビズ商品が息切れし、紳士服や紳士靴も動きが鈍く前年比減少幅は拡大した。9月は、気温の低下により秋物衣料品が動き始めたものの、台風による来客数の減少などにより前年比減少幅は拡大した。スーパーは、例年より梅雨明けが早かったため夏物商材が良い動きを見せるも、雨や台風の上陸などの影響で衣料品が落ち込むなど、前年比減少幅は拡大した。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「前半はまずまずの売上で推移し、中旬から衣料品を中心にやや低迷している。後半は前年ほど気温が下がらず、季節商材の動きが今一步である。低価格志向は落ち着いた感があるものの、売上は一進一退の状況(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.4	1.2	0.8	2.1
百貨店(*1)	1.8	2.6	1.2	2.0
スーパー(*1)	1.2	0.5	0.6	2.2
大型小売店(*2)	0.3	0.6	0.7	2.2
(季節調整値)(*3)	(0.8)	(0.5)	(0.3)	(1.3)
乗用車(*4)	26.8	24.0	32.1	16.2
(季節調整値)(*4)	(32.3)	(5.6)	(14.3)	(34.4)

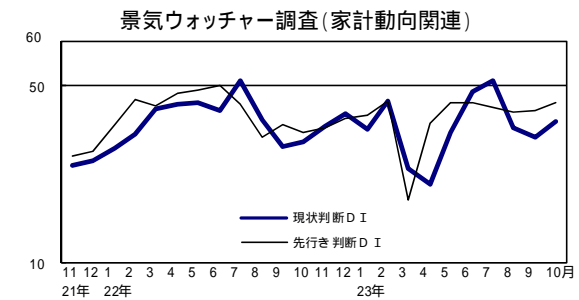
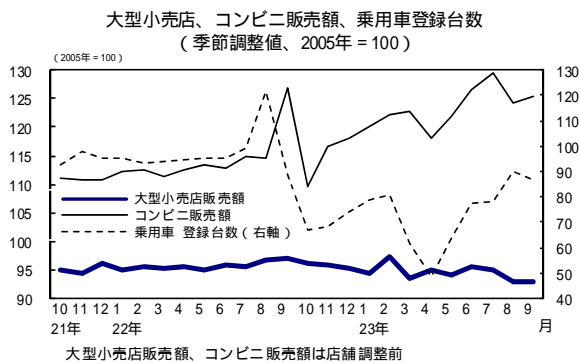
(備考) 1.店舗調整済、前年同期比(%)

2.店舗調整前、前年同期比(%)

3.店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は新規登録・届出台数

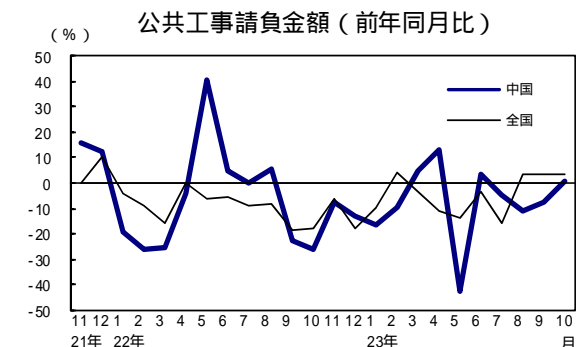
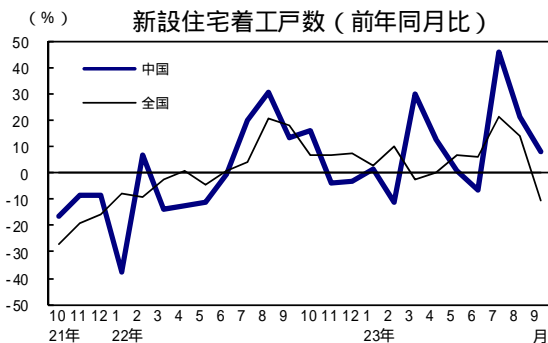
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

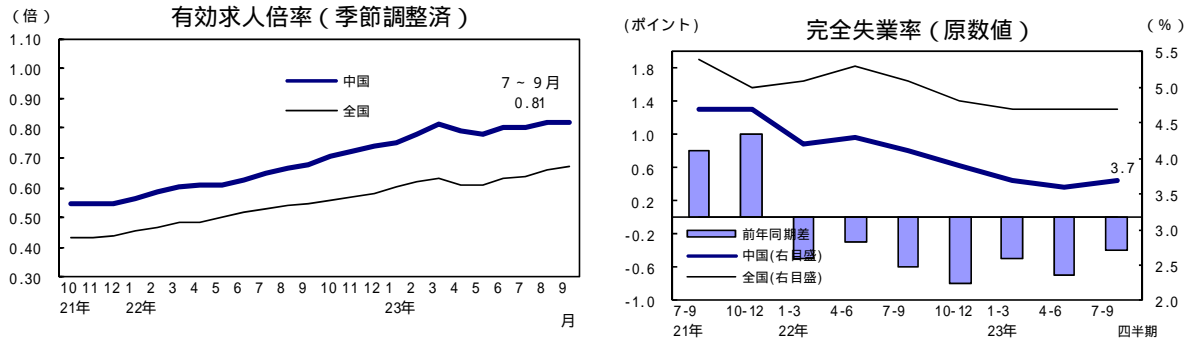


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

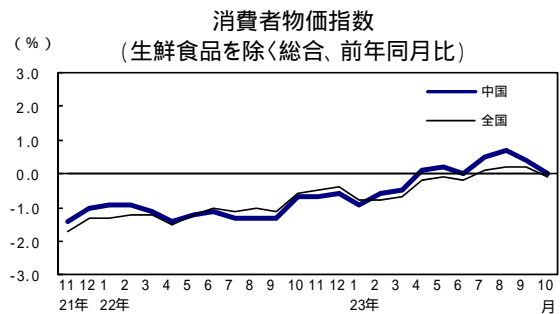
「建設業では台風被害による道路等の修復に伴う作業員の求人や、製造業では好調な国内向け携帯電話関係の求人の増加が目立った一方、運輸業ではタクシー運転手の求人を中心に大幅に減少しており、トータルでは前年比でわずかながら増加している(その他雇用の動向を把握できる者[労働機関])」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	95	114	129	133	37
(前年比)	39.1	3.4	16.2	20.9	12.1
負債総額	170	2,614	746	202	49
(前年比)	63.6	611.7	205.4	4.9	10.6



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 自動車関連を中心に、製造業での作業派遣の依頼数が停滞している。タイの洪水の影響で、求人が取消しとなった企業も見受けられる(人材派遣会社)

<先行き>

- 製造業を中心に設備・インフラともにダウンサイジングの検討傾向にあり、大幅な設備投資に関する商談が減少している(通信業)

